

アート&デザインの大茶会

マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ

『おおいた大茶会』をテーマに開催される第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会を記念し、大分県立美術館では、開館当初より親しまれているアトリウム展示をてがけた3人の作家、マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイによるインスタレーションに特化した展覧会を行います。本展のために特別に計画された展示を通してアートとデザイン、それぞれの分野における第一線の活動をご紹介します。

オランダのデザイン界の貴公子、マルセル・ワンダースは、自身がデザインしたオブジェクトと映像によって「幻想の間」を創り出します。世界的に活躍する日本人テキスタイルデザイナー、須藤玲子は布のオブジェを浮かび上がらせた「触感の間」を創り出します。日本の若手現代アーティスト、ミヤケマイは、インタラクティブな展示により、鑑賞者が作品との対話と反応を楽しみながら思いをめぐらせる「瞑想の間」を創り出します。

開館当初から大分県立美術館が目指す、「出会いのミュージアム」。そして国民文化祭のテーマである「大茶会」。この2つのコンセプトのもと、五感にうったえ、人と作品の出会い、センセーショナルな現代版茶会をお届けします。

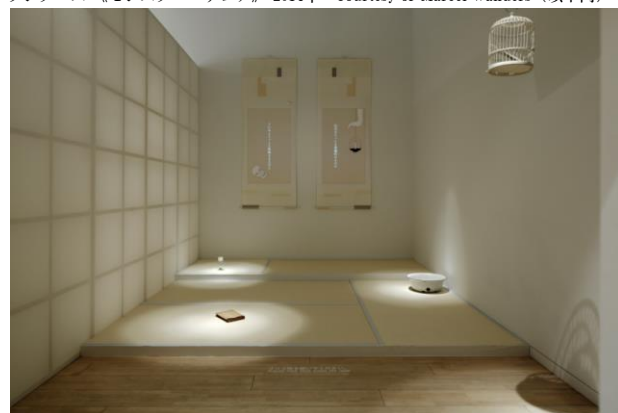
TEA CEREMONY FASCINATION of ART AND DESIGN



マルセル・ワンダース 《モンスター・チェア》 2014年 Courtesy of Marcel Wanders (以下同)



須藤玲子 《こいのぼり》 2014年 フランス国立ギメ東洋美術館



ミヤケマイ 《必然》 2013年 写真：繁田諭

会 期 2018年6月15日(金)~7月22日(日)
開館時間 10:00~19:00 (金・土曜日は20:00まで、入場は閉館の30分前まで)

会 場 大分県立美術館 1階 展示室A
観 覧 料 一般 1,000(800)円、大学生・高校生 500(300)円

・()内は20名以上の団体料金 ・中学生以下は無料 ・障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料
・学生の方は入館の際、学生証をご提示ください ・本展覧会の半券で、コレクション展を団体料金でご覧いただけます
・大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金

主 催 アート&デザインの大茶会実行委員会、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

共 催 大分合同新聞社、TOSテレビ大分

後 援 オランダ王国大使館、大分県、大分県教育委員会、大分県芸術文化振興会議、エフエム大分、大分ケーブルテレコム株式会社、大分県デザイン協会、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会 大分地区

特別協賛 株式会社伊藤園

協 力 公立大学法人大分県立芸術文化短期大学、オランダ政府観光局、KLMオランダ航空、Museo Alessi、Baccarat、Christofle クリフトル、コスメデコルテ、ASTER、Electronica、Pixie Dust Technologies, Inc.、SHISEIDO THE STORE、Venus Laser株式会社/studioTED、ウエダジュエラー、大分県立歴史博物館、大久保文之、大蔵山スタジオ株式会社、株式会社岡井麻布商店、鬼塚電気工事株式会社、カモンシカ書店、クウジツ株式会社、幸兵衛窯、佐野文彦、サンワ工務店、しぶや黒田陶苑、株式会社スピノ/studioTED、ソニーPCL株式会社、株式会社ダイカン、株式会社中川ケミカル、日田漁業協同組合、藤野芳徳、馬渡侑佑、株式会社ミラルプロダクツ/studioTED、諸富京子、山路敦司、和傘工房「朱夏」

助 成 平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、公益財団法人花王芸術・科学財団



第33回国民文化祭・おおいた2018
第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会 応援事業

マルセル・ワンダース Marcel Wanders



マルセル・ワンダースはアムステルダムを拠点に活動するプロダクト&インテリアデザイナー、アートディレクター。アレッシ、バカラ、クリストフル、コーセー、KLMなど数々の企業とのコラボレーション、ハイアットやアンダーズなどホテルや商業施設の内装など、1900を越える数の仕事を展開し、先鋭的なデザインを発信し続けています。

マルセルは、デザイナーと職人と使う人々が結びつき、人の温もりを形にする「ルネサンス」以来の伝統を蘇らせませす。20世紀の冷たい工業主義から離れ、いにしへの詩と幻想とロマンスを、今日の生活に復活させませす。

本展では、過去27年間のマルセルの仕事のなかから、国際的なブランドとコラボレーションした商品や、最新の映像作品を紹介し、訪れる人々を魔法の旅へとご案内します。

アレッシの《サーカス》(2016)は、楽しいサーカスの世界とキッチンツールとしての機能を組み合わせた、イマジネーション豊かな限定商品。サイベックスからは、大人のテイスト、シックさと、子どもが喜ぶポップさを合わせ持つ育児用品を紹介。コーセーでは、2010年からコスメデコレテAQMWラインのパッケージデザインを担当し、2011年からは毎年、限定フェイスパウダーコンパクトをデザインしています。女性の絶えまぬ生命力と美を賛え、常識をくつがえす斬新なデザインを提案し続けています。映像作品《Virtual Interiors》(2013~)では、世界のデザインシーンで活躍するマルセルが内に秘めた、哀愁に満ちた儂いファンタジーが、ダイナミックな仮想空間として視覚化されています。

マルセル・ワンダースの驚きと感動、めくるめく夢の世界へようこそ。



《サーカス》 2016年 Museo Alessi



《Virtual Interiors》 2013年~



《コーセーコスメデコレテフェイスパウダー》

須藤玲子 Sudo Reiko



須藤玲子は、日本を代表するテキスタイルデザイナー。1984年、株式会社「布」の設立に加わり、現在は取締役デザインディレクターとして、日本の伝統的な染織技術から現代の先端技術までを駆使した布づくりをおこなっています。2006年、マンダリンオリエンタル東京のテキスタイルデザインを手がけ、毎日デザイン賞を受賞。これまで制作した布地の数々は、ニューヨーク近代美術館(MoMA)をはじめとした世界各国の美術館に永久保存され、今までに無い独創的なテキスタイルの達成により、現代デザインをリードしています。

本展のインスタレーションでは、須藤玲子がデザインした約80匹ものこのぼりが、展示室の空間をダイナミックに泳ぎ回る、驚きの幻想空間に入り込んでいただきます。須藤は、子どもの健やかな成長を祈る日本の伝統行事に着想を得て、フランスの展示デザイナーのアドリアン・ガルデルとコラボレーションし、米国ワシントンD.C.のジョン・F・ケネディ舞台芸術センター(2008年)、またパリのギメ東洋美術館(2014年)、六本木の国立新美術館(2018年)にて、この作品を発表してきました。きらめく色とりどりのこのぼりが、OPAMバージョンとしてやってきます。ぜひ五感を刺激するダイナミックなインスタレーションを体感してください。



《このぼり》(部分)
《Striped Rounds》2004年
撮影: Sue McNab



《このぼり》 2014年 フランス国立ギメ東洋美術館

ミヤケマイ Miyake Mai



日本の伝統的な美術や工芸の繊細さや奥深さに独自のエスプリを加え、過去と現在、未来までをシームレスにつなげながら物事の本質を問う作品を制作。媒体を問わない表現方法を用いて骨董、工芸、現代アート、デザインなど既存のジャンルを問わずに天衣無縫に制作を発表する。大分県立美術館(OPAM)、水戸芸術館、Shanghai Duolun Museum of Modern-Art、POLA美術館、森美術館、世田谷美術館での展示及びワークショップのほか、村越画廊、壺中居、Bunkamuraギャラリーなどで個展多数。銀座メゾンエルメス、慶應大日吉キャンパス来往舎ギャラリーなど、企業や大学でもサイトスペシフィックなインスタレーションを手がける。『膜迷路』(羽鳥書店/2012年)、『蝙蝠』(2017年)など4冊の作品集がある。2018年SHISEIDO THE STOREのショーウィンドウのアートディレクターに就任。京都造形芸術大学客員教授。

現代の大茶室

本展では、希代未聞のインタラクティブな大型のインスタレーション作品「茶室」がOPAMの展示空間に現出します。感覚に訴えるインタラクティブなこの展示は、鑑賞者が何かを汲み取り、行動することによって出会う時間の流れや、人間を模倣した一本の筒としての迷路のような空間を創り出します。また、「茶室」は、それを構成する五行(*)を一度分解し、鑑賞者の体験を通して脳内で再構成してもらおう空間となります。ここにしかない、驚きと五感を刺激する作品との出会いをぜひ体感ください。



《必然》 2013年



《SHISEIDO THE STORE ウィンドウ》 2018年 写真: 紫田諭



* 陰陽五行。自然界に存在する物質は「陰」と「陽」の要素から成立すると唱えた「陰陽説」と自然界に存在する物質は「木」「火」「土」「金」「水」の五元素由来すると唱えた「五行説」が一体化し、古代中国で成立した、茶道とも関係性の深い、自然哲学の基礎概念。

大分県立美術館 (OPAM) 1階 アトリウムの展示作品

マルセル・ワンダース Marcel Wanders

大分県立美術館では2015年春の開館にあわせて、1階アトリウムで来館者を迎える卵型のバルーン《ユーラシアン・ガーデン・スピリット》を制作。大人も子どもも、訪れる人々が、触ったり、記念撮影をしたり、色とりどりの花々や虫たちを見つけたり、思い思いに楽しみ、親しまれ続けています。オランダ商船が大分の白杵に漂着した後に発展したという日蘭交流の歴史にオマージュを捧げ、ヨーロッパからアジアにわたるユーラシアの姿を、出会いのアートとして作品化しました。華やかな柄は全体では骸骨のように見え、中世ヨーロッパの静物画に描かれる骸骨が意味する「ヴァニタス」(死すべき運命)を表しています。



《ユーラシアン・ガーデン・スピリット》 2015年

須藤玲子 Sudo Reiko

2015年の春、大分県立美術館(OPAM)の新設開館にあわせて、《ユーラシアの庭「水分峠の水草」》を制作。湯布院と玖珠の境となる水分峠(みずわけとうげ)は、西の筑後川と東の大分川の分水嶺であり、峰々から集まる水が豊かな河川の流れをつくってきました。この水分峠の清水に浮かぶ水草をイメージしたテキスタイルによるシャンデリアが、坂茂のOPAM建築の目玉でもある巨大アトリウムの空間にほんのりと輝き、来館者をやさしく包み込みます。そこには須藤が思いを馳せる原始の自然への、またユーラシアの森羅万象に対する畏怖と恋慕が表されています。



《ユーラシアの庭「水分峠の水草」》 2015年

ミヤケマイ Miyake Mai

大分観光壁

「観光」とは、「光を観て、地域の命に出会う」こと。

美術家ミヤケマイが、世界は紛争に向かいつつあると警告し平和を願う作品「世界は届けい・セカイハトドケイー大分の中心で家内安全を叫ぶ」や見えそうで見えない現代版大和絵巻「もどる場所があるということ」、水をテーマにしたインタラクティブな体験型の作品「水府ー覆水難取・フクスイオサメガタシ」、大分の伝統的な切り灯籠による現代版依代「おかえりなさい。」など、大分の文化風土をテーマにした大型のインスタレーションを大分県立美術館(OPAM)の1階アトリウムに展開しています。



《水府ー覆水難取・フクスイオサメガタシ》 2015年



《世界は届けい・セカイハトドケイー大分の中心で家内安全を叫ぶ》 2015年



《おかえりなさい。》 2015年



《もどる場所があるということ》 2015年

関連事業

アーティストトーク

「アート&デザインの大茶会

マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ」

日時 2018年6月15日(金) 13:30~15:00

場所 大分県立美術館 1階 アトリウム

登壇者 マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ
新見隆(大分県立美術館 館長)

定員 160名

参加費 無料(申込み必要)

ワークショップI

「さがせ、私の“こいのぼり”」

須藤玲子氏とともに、展示されている“こいのぼり”を双眼鏡でじっくり見たのち、いろいろな布を使って自分の“ミニこいのぼり”をつくります。

日時 2018年6月16日(土) 13:30~16:30

場所 大分県立美術館 2階 アトリエ

講師 須藤玲子

対象・定員 高校生以上一般 20名程度

参加費・材料費 1,000円+観覧券(申込み必要) (予定)

ワークショップII

「石の記憶」

ミヤケマイ氏とともに、アート&デザインの大茶会の鑑賞ツアーをしたのち、聖書などにも出てくる最も古い記述形式である、石に文字や絵を彫るワークショップを開催します。

アート&デザインの大茶会の鑑賞の記憶や想いを永遠に残るメッセージとして、イサム・ノグチが晩年に愛した宮城県の大蔵山の「伊達冠石」に刻んでみませんか?

日時 2018年6月16日(土) 10:00~12:30

場所 大分県立美術館 創作広場

講師 ミヤケマイ

定員 20名

参加費・材料費 2,000円+観覧券(申込み必要) (予定)

ギャラリートーク

日時 2018年6月23日(土)、6月29日(金)、6月30日(土)、
7月7日(土)、7月14日(土)、7月21日(土)

※金曜日は 16:00-17:00、土曜日は14:00-15:00

場所 大分県立美術館 1階 展示室A

参加費 無料 申込み不要(参加には観覧券が必要)

【お問い合わせ】 大分県立美術館 美術館管理課 広報担当 宇都宮・木藤・後藤・植木